



注射薬の血管外漏出に注意しましょう。

抗がん剤が血管外漏出した際の危険度および対処方法は「医療安全マニュアル」に記載がありますが、抗がん剤以外の静脈注射薬についても、薬剤の血管外漏出は、ときに痛みを伴う皮下硬結や、難治性の皮膚潰瘍の原因となります。

以下に血管外漏出に注意すべき注射薬、血管外漏出を予防するためのポイント、対処・治療法を示します。

【血管外漏出に注意すべき注射薬（抗がん剤以外）】

(1) 鉄含有製剤：赤褐色の液体のため、色素沈着が生じる。		
含糖酸化鉄	フェジン静注40mg	
カルボキシマルトース第二鉄	フェインジェクト	
(2) 高浸透圧薬：高浸透圧により細胞内外の浸透圧平衡が崩れ、組織障害が生じる。		
造影剤		
高張（20%以上）ブドウ糖液		
D-マンニトール	マンニトールS注射液	
アミノ酸輸液	アミパレン輸液、プレアミン-P注射液 等	
アミノ酸・ビタミンB ₁ 加総合電解質液	ビーフリード輸液	
人免疫グロブリン製剤	献血ヴェノグロブリンH10%静注、献血グロベニン-I静注用、献血ベニコロン-I静注用	
(3) 血管収縮薬：末梢血管の収縮による虚血性変化により組織障害が生じる。		
アドレナリン	ボスミン注1mg、アドレナリン注0.1%シリンジ	
ノルアドレナリン	ノルアドレナリン注1mg	
エチレフリン	エホチール注10mg	
フェニレフリン	ネオシネジンコーワ注5mg	
ドブタミン	ドブタミン塩酸塩点滴静注液100mg、ドブタミン持続静注150mgシリンジ	
ドパミン	イノバン注100mg、イノバン注0.3%シリンジ	
(4) 強アルカリ性製剤：直接的な細胞障害により組織障害が生じる。		
カンレノ酸カリウム	ソルダクトン静注用200mg	
炭酸水素ナトリウム	メイロン静注7%	
アシクロビル	アシクロビル点滴静注液250mg	
ガンシクロビル	デノシン点滴静注用500mg	
(5) 電解質補正薬：Ca、Kイオンを大量に含むため、細胞膜の機能に影響を及ぼし組織障害が生じる。		
大塚塩カル注2%、カルチコール注射液8.5%5mL、KCL注20mEqキット		
(6) その他（添付文書に血管外漏出時のリスクについて記載のある薬剤）		添付文書に記載の症状
ナファモスタットメシル酸塩	ナファモスタットメシル酸塩注射液10mg・同50mg	炎症又はそれに伴う壊死
プロボフォール	プロボフォール静注1%、1%ディプリバン注キット	
バンコマイシン塩酸塩	バンコマイシン塩酸塩点滴静注用0.5g	壊死
静注用脂肪乳剤	イントラリボス輸液20%	皮膚壊死
セフォタキシム	セフォタックス注射液1g	腫脹・壊死等
ダントロレン	ダントリウム静注用20mg	壊死、腫脹、発赤等
ニカルジピン	ニカルジピン塩酸塩注射液10mg	炎症・硬結等
フルオロセイン	フルオレサイト静注500mg	
メチルチオニウム	メチレンブルー静注50mg「第一三共」	皮膚壊死等
ミダゾラム	ミダフレッサ静注0.1%、ミダゾラム注10mg	疼痛、発赤、腫脹等

続きあり



血管外漏出を予防するためのポイント

- 輸液が血管外漏出した場合のことも考慮し、事前に輸液の成分（配合剤も含む）、浸透圧等をチェックする。
- **血管外漏出の危険性を説明し、投与中に少しでも違和感があれば患者に知らせてもらい早期発見に努める。**

1. 投与時の注意点

- 血流が良好で太く弾力があり、損傷のない静脈を選ぶ。手の甲など、動きやすい静脈は避ける。
- 逆血や、生理食塩液を用いるなどして、静脈への開通性を確認する。
- 再刺入する場合は、同じ部位での刺入は避ける。

2. 投与中の注意点（定期的に観察をする）

- 投与開始10分程度は、注入部位を注意深く観察する。
 - *注入部位に異常（浮腫、紅斑、疼痛、漏出）がないか
 - *点滴がスムーズに流れない、点滴速度の低下などの異常がないか
- 漏出が疑われる場合には直ちに投与を一時中止する。

3. 投与後の注意点（抜針時、残った薬剤の漏出を防ぐために）

- 生理食塩液を用いるなどして、本剤が完全に静脈内に投与されたことを確認してから、抜針する。
- 注射部位をしっかり圧迫止血する。

対処・治療法

- 漏出の徴候が認められた場合には、直ちに投与を中止し、留置針を抜去する。（吸引による皮膚障害の可能性があるため、残留薬液、血液の吸引は推奨しません）
- 冷罨法により、患部を冷却する。（低温による皮膚障害に注意）
- 専門医による指示のもと必要に応じて副腎皮質ホルモン外用剤の塗布を行い、経過観察を行う。
（ステロイドの強さは、状態に応じて strong～strongest を使用）

引用文献：月刊薬事 2024.7 増刊号 (vol.63 No.10)
がん薬物療法に伴う血管外漏出に関する合同ガイドライン2023

不明な点につきましては、薬剤部・医薬品情報管理室(内線 7083)までご連絡下さい。

(文責：丹羽今日子)